

効果的な学習のための基礎・基本の定着について

愛媛県立土居高等学校

山崎 多美

1 はじめに

本校は、四国中央市の西側に位置しており、市内7中学校だけでなく、新居浜や西条の中学校出身の生徒も増えてきている。令和7年度の1年生は、地元の土居中学校出身者が40%、三島地区の3中学校出身者が約30%、川之江地区の2中学出身者が約16%、残りがその他の地域の中学校出身者である。学習やコミュニケーションに苦手意識を持っている生徒は多く、中学校にはあまり通えていなかったという生徒も少なくない。

「自学」「健康」「礼節」という校訓を掲げる本校は、「自分で考え、行動する力」「思いを伝え合い、人と協力する力」の育成を目指し、基礎的・基本的事項の定着を重視している。教科「情報」の授業においても、学習の効果を上げるためには基礎・基本が定着していることが大切だと感じる場面が多いため、この主題を設定した。

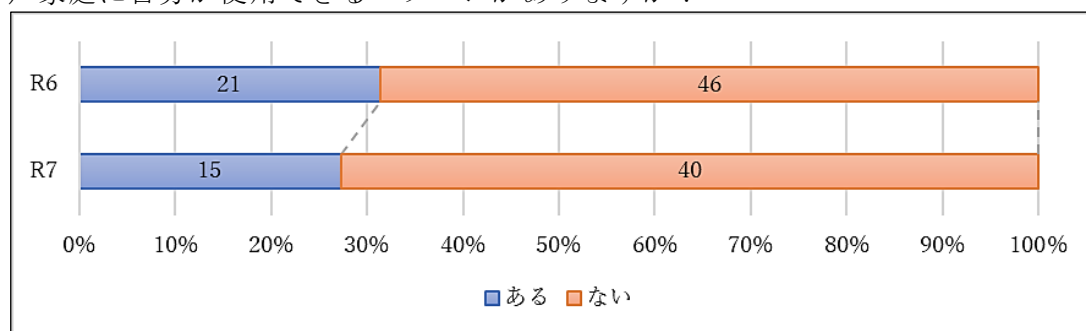
2 内容

(1) 実態調査

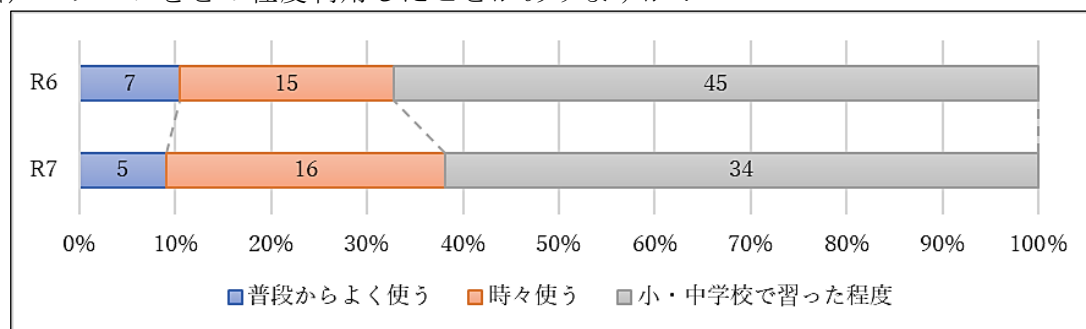
ア 新入生アンケート

新年度の授業開始時に、パソコン経験についてのアンケート調査を行った。昨年と同様のアンケート調査をしており、比較しながら生徒の実態把握に努めた。

(ア) 家庭に自分が使用できるパソコンがありますか？

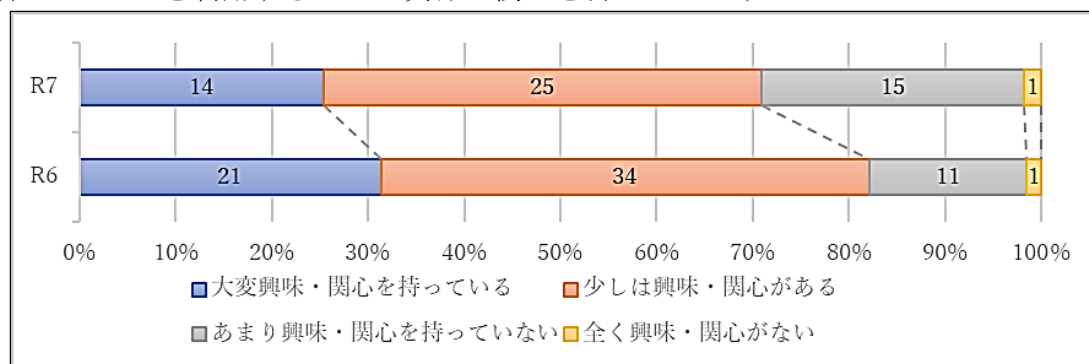


(イ) パソコンをどの程度利用したことがありますか？



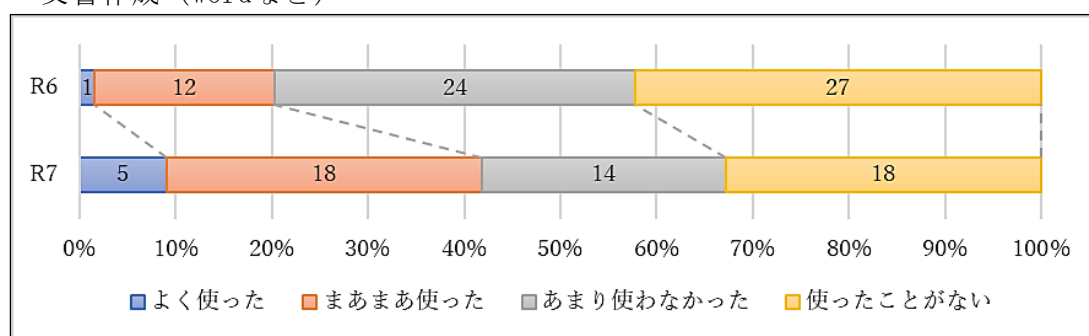
家庭で使用できるパソコンがある生徒は30%程であり、60%以上の生徒が授業で習った程度しかパソコンを利用していないようであった。70～80%程の生徒がパソコンを利用することに興味・関心を持っていると答えていた。

(ウ) パソコンを利用することに興味・関心を持っていますか？

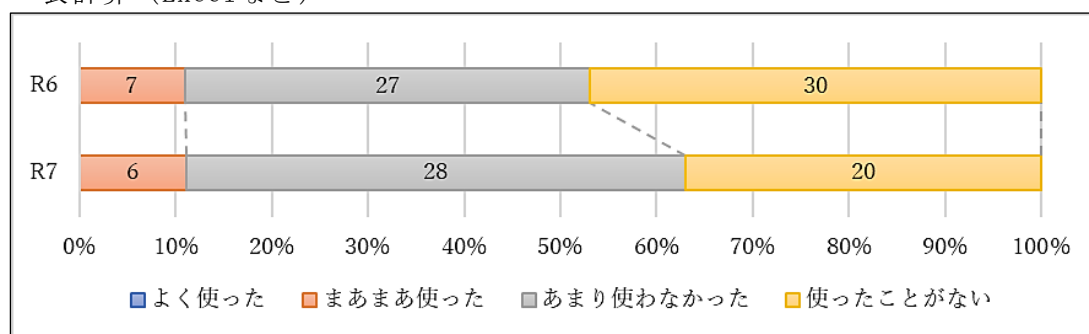


(エ) 中学校の授業でパソコンをどの程度利用しましたか？

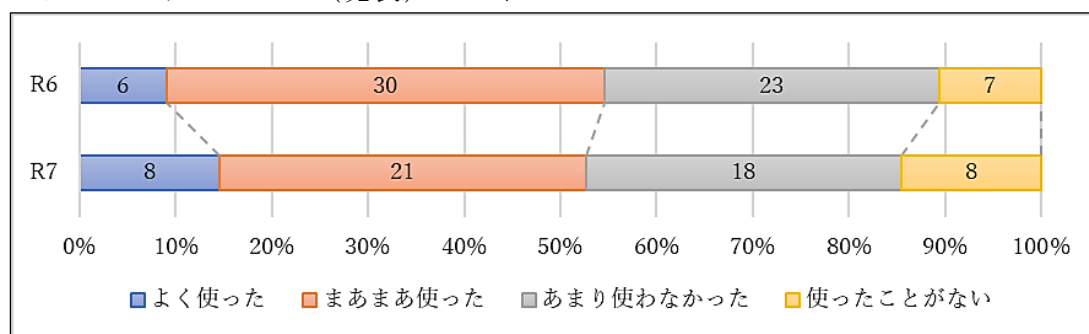
・文書作成 (Wordなど)



・表計算 (Excelなど)

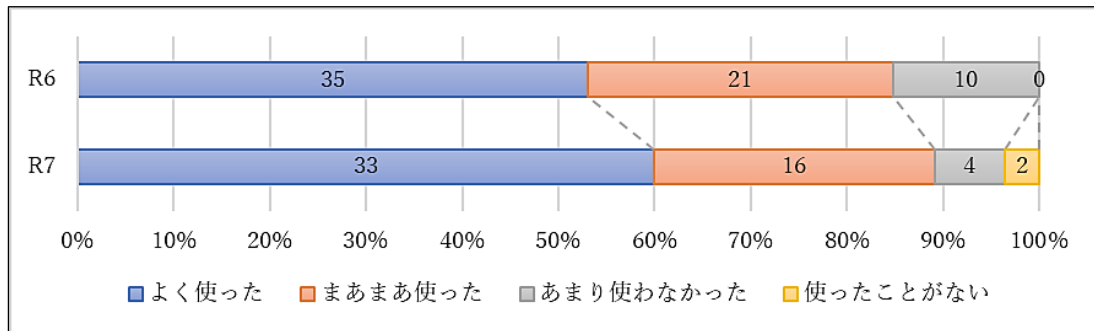


・プレゼンテーション (発表) ソフト

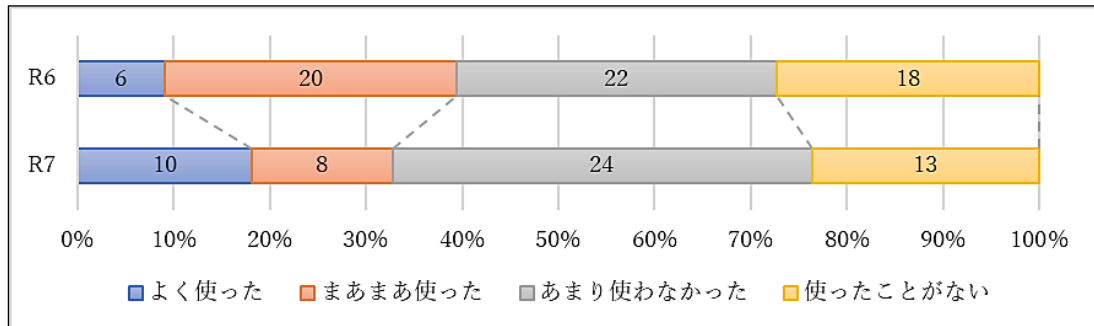


中学校の授業において、Wordは20～40%の生徒が「よく使った」「まあまあ使った」と答えており、Excelは「よく使った」という生徒はおらず、「まあまあ使った」という生徒が10%程度だった。プレゼンテーションソフトについては、半数以上の生徒が利用していた。

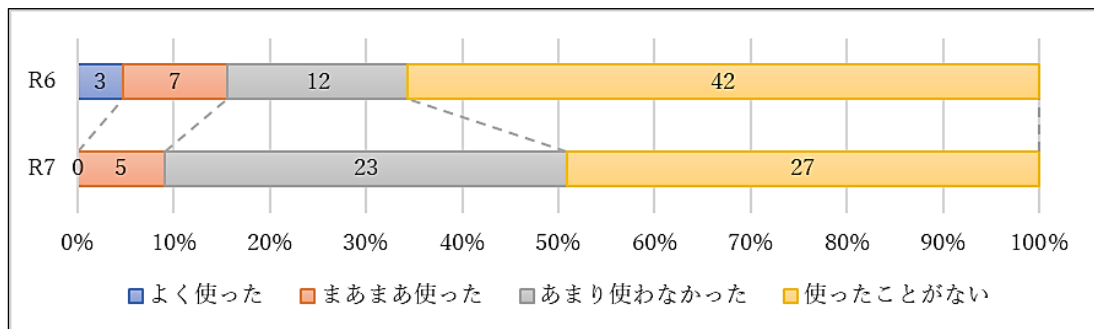
・インターネット



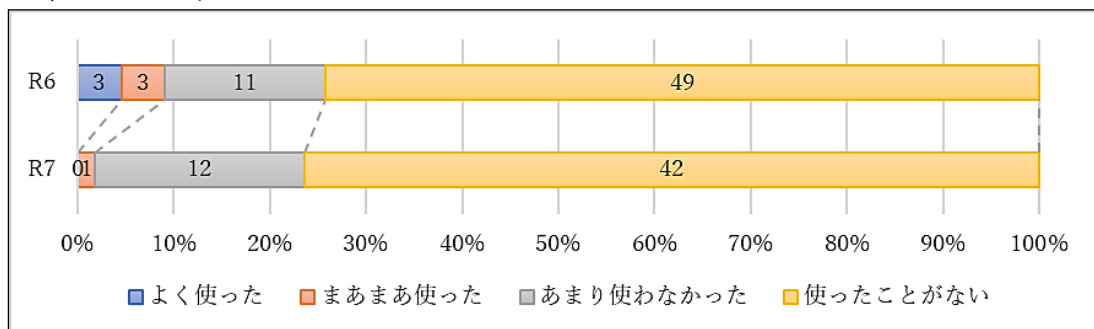
・ゲーム



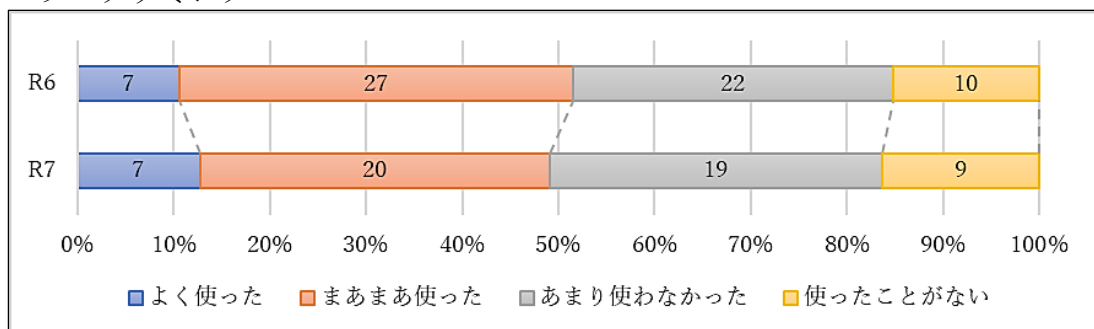
・E-mail



・ホームページ

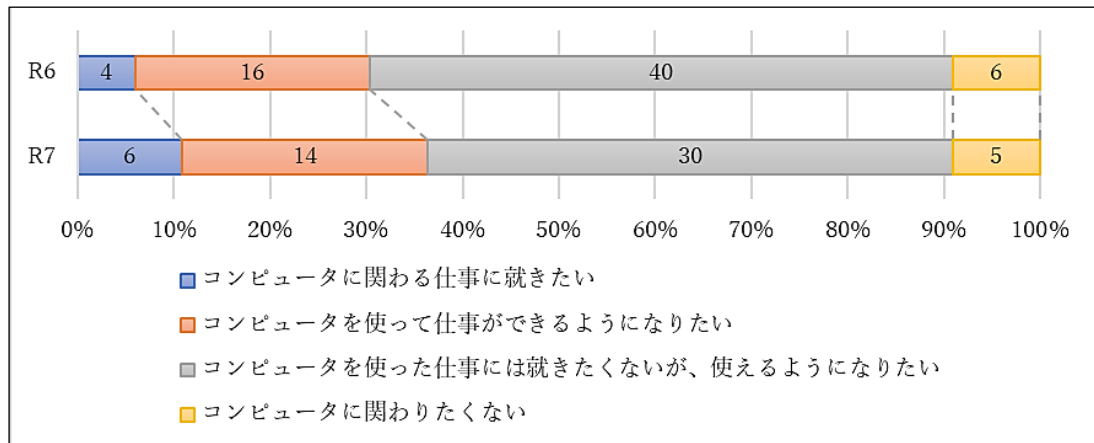


・プログラミング



90%近くの生徒が授業でインターネットを利用していたが、E-mailの利用は20%に満たず、ホームページ作成はほとんどしていなかった。プログラミングは、約半数の生徒が学習していた。令和6年度入学生と令和7年度入学生とでは学習内容に差が見られ、中学校によっても違いがあるように思われた。

(オ) 将来、コンピュータに関わる仕事に就きたいと思いますか？



コンピュータに関わる仕事に就きたいという生徒は多くはないが、90%程の生徒が、将来、コンピュータを使えるようになりたいと答えていた。

イ パソコン操作に関する基礎・基本の定着について

パソコンでどのようなことをしたことがあるか尋ねると、インターネットやゲームという答えは多かったが、キーボード操作が必要な使い方をしている生徒は40%～45%程度であった。キーボードを使って入力するという経験そのものが少なく、操作が未熟であると思われた。授業でも、両手で入力しない生徒やShiftキーを使わない生徒、記号の入力ができない生徒が多く見受けられた。入学当初、10分間の測定における平均入力文字数は、令和6年度入学生は233文字、令和7年度入学生は330文字だった。また、ローマ字に対する苦手意識を持っている生徒も多く、ローマ字表記に関する問題の正答率は、令和6年度入学生が67.5%、令和7年度入学生が73.6%だった。学習をスムーズに進めるためには、キーボードやマウスを適切に扱えることと、漢字変換が問題なく行えることが必要であると思われた。

(2) 研究と実践

ア 美佳タイプトレナーを使った練習

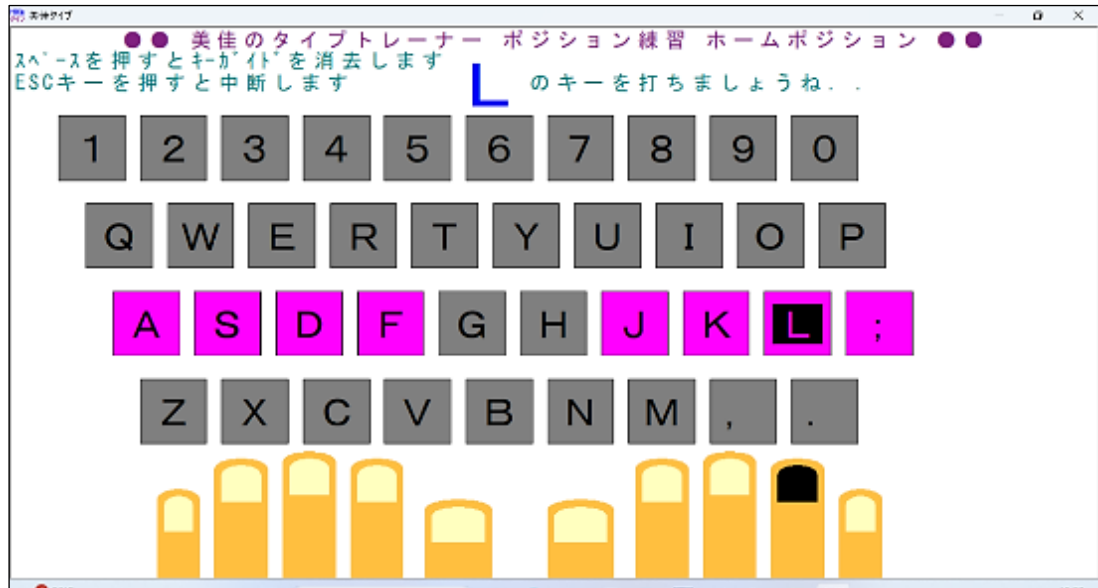
(ア) タイピング練習の進め方

- ① AからZまでのアルファベットを覚える。
- ② ローマ字でかな（清音）の練習。
- ③ ローマ字でかな（濁音、拗音）の練習。
- ④ 撥音、促音、句読点、長音の練習。
- ⑤ かな漢字変換を覚える。

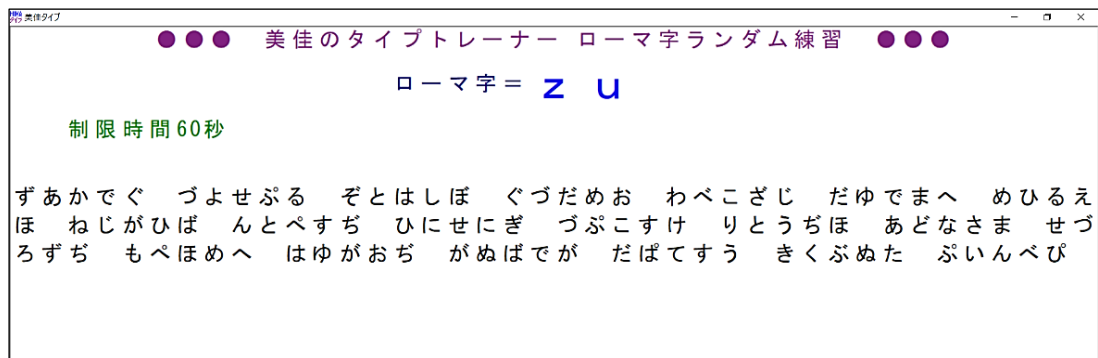
(イ) タイピングのポイント

- ①背筋を伸ばしてひじが90度の角度で曲がるように設定する。
- ②まず指をホームポジションにのせる。
- ③各指がどのキーを打つかはあらかじめ決まっている。
- ④キーを打つ指は、ホームポジションから出発してホームポジションに戻る。
- ⑤キーを打つときは、人差し指か小指が必ずホームポジションに触っている。

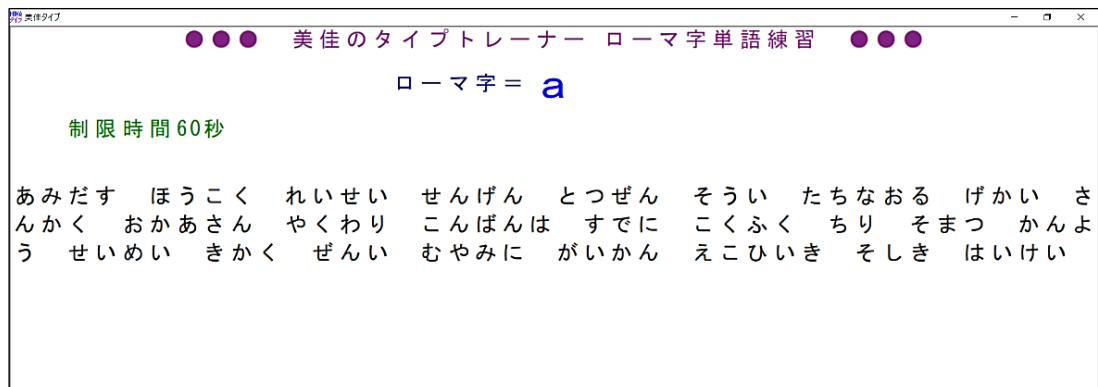
(ウ) ポジション練習



(エ) ローマ字ランダム練習



(オ) ローマ字単語練習



イ ローマ字表記の確認

ローマ字確認表を用いて、ローマ字表記の確認をさせた。

() 年 (B) 組 (13) 番						
氏名 ()	あ	い	う	え	お	ん
	A	I	U	E	O	NN
か	KA	KI	KU	KE	KO	KYA KYI KYU KYE KYO
が	GA	GI	GU	GE	GO	GYA GYI GYU GYE GYO
さ	SA	SI	SU	SE	SO	SYA SYI SYU SYE SYO
ざ	ZA	ZI	ZU	ZE	ZO	JYA JYI JYU JYE JYO
た	TA	TI	TU	TE	TO	TYA TYI TYU TYE TYO
た	TSA	TSI		TSE	TSE	THA THI THU THE THO
だ	DA	DI	DU	DE	DO	DYA DYI DYU DYE DYO
だ	DHA	DHI	DHU	DHE	DHO	DWA DWI DWU DWE DWO
な	NA	NI	NU	NE	NO	NYA NYI NYU NYE NYO
は	HA	HI	HU	HE	HO	HYA HYI HYU HYE HYO
ば	BA	BI	BU	BE	BO	BYA BYI BYU BYE BYO
ぱ	PA	PI	PU	PE	PO	PYA PYI PYU PYE PYO
ま	MA	MI	MU	ME	MO	MYA MYI MYU MYE MYO
や	YA		YU		YO	
ら	RA	RI	RU	RE	RO	RYA RYI RYU RYE RYO
わ	WA	WI		WE	WO	VA VI VU VE VO

() 年 (B) 組 (13) 番						
氏名 ()	あ	い	う	え	お	ん
	A	I	U	E	O	NN
か	KA	KI	KU	KE	KO	KYA KYI KYU KYE KYO
が	GA	GI	GU	GE	GO	GYA GYI GYU GYE GYO
さ	SA	SI	SU	SE	SO	SYA SYI SYU SYE SYO
ざ	ZA	ZI	ZU	ZE	ZO	JYA JYI JYU JYE JYO
た	TA	TI	TU	TE	TO	TYA TYI TYU TYE TYO
た	TSA	TSI		TSE	TSE	THA THI THU THE THO
だ	DA	DI	DU	DE	DO	DYA DYI DYU DYE DYO
だ	DHA	DHI	DHU	DHE	DHO	DWA DWI DWU DWE DWO
な	NA	NI	NU	NE	NO	NYA NYI NYU NYE NYO
は	HA	HI	HU	HE	HO	HYA HYI HYU HYE HYO
ば	BA	BI	BU	BE	BO	BYA BYI BYU BYE BYO
ぱ	PA	PI	PU	PE	PO	PYA PYI PYU PYE PYO
ま	MA	MI	MU	ME	MO	MYA MYI MYU MYE MYO
や	YA		YU		YO	
ら	RA	RI	RU	RE	RO	RYA RYI RYU RYE RYO
わ	WA	WI		WE	WO	VA VI VU VE VO

ウ 漢字変換練習

(ア) 漢字変換練習の教材

I C T 支援員の方が、ビジネス文書実務検定速度部門の問題集を参考にして漢字変換練習のための教材を作成してくださった。さらに検定版や昔話を題材にした教材も作ってくださり、それを活用して授業の中で漢字変換の練習を行った。

【漢字変換練習：検定版】

日本語入力練習

10.24.60.243/教職員共有/02教科/09情報/補足資料/漢字変換練習/TypingLesson_L91.html

ガイド

テキスト

3級①

3級②

3級③

3級④

2級①

2級②

2級③

2級④

F

10分

用意

中止

自動

09:43 (1.2%)

実施数：1，Key：21，マッチ：7/550 (1.2%) Go!

子供のころから

食べているものの一つに、あんぱんがあります。これは、その名のとおり、あんこをパン生地の中に詰めて焼いたものです。これが、わが国で誕生したということを知っていましたか。西洋の食材に、わが国のお菓子の材料を組み合わせたこの商品が開発されたのは明治初期で、銀座にあるお店で売り出されたのが始まりだといえます。開国して間もない時代であるため、当時の人々の目には、さぞおもしろい食べ物に映ったことでしょう。洋風のパンを口にしたことがないといった人が多かったため、本来使われるはずの酵母ではなく、米とこうじから作られる種を利用したそうです。どちらかというと和菓子に近い方法で作ったおかげで、日本人に親しみやすい味わいの食べ物として完成しました。それが、瞬く間に人気となったのは言うまでもありません。(7/354)

現在の、あんこの種類の違いだけでなく、桜やイモ、クリなどが中に入ったものも生産されるようになりました。また、丸ごと油で揚げた砂糖をまぶしたドーナツなども販売されています。そして、この食べ物はアニメで主役のキャラクターにもなり、今でも子供から絶大な人気を誇っています。老若男女問わず、どの世代にも愛されるあんぱんは、これからもさまざまな商品となって、次の世代へと受け継がれていくことでしょう。

【漢字検定練習：物語】

日本語入力練習 x +

ファイル 10.24.60.243/教職員共有/02教科/09情報/補足資料/漢字変換練習 2 /jTypeV2.html

ガイド テキスト わらしべ長者 鬼が島 いなほの白兔 かぐや姫 F 15分 用意 開始 自動 15:00 (0%)

実施数：0, Key：0, マッチ：0/860 (0%)

昔々、ある若者が、お寺で観音様に「どうか、お金持ちになれますように」とお願いをしました。すると、観音様が「ここを出て、始めに掘んだものが、お前を金持ちにしてくれるだろう」と言いました。

観音様（かんのんさま）、「」（かぎ括弧は[]で入力）

喜んだ若者は、お寺を出たとたん石につまずいて転びます。そしてその拍子に、一本のわらしべを掘みしました。「観音様がおっしゃった、始めに掘んだものって、これのことかなあ？とでもこれで金持ちになるとは思えないが」

拍子（ひょうし）、掘み（つかみ）、あ（小文字の「あ」は「xa」または「ja」で入力、かな入力の場合はSHIFTを使う）、？（SHIFTを押しながら「j」）

若者は首を捻りながら歩いていると一匹のアブが飛んできました。若者はそのアブを捕まえ持っていたわらしべに結んで遊んでいると、向こうからやってきた立派な車に乗っている子供が「あのアブが欲しいよう」と言いました。「ああ、いいとも」若者が子供にアブを結んだわらしべをあげると、家来の者がお礼にミカンを三つくれました。「わらしべが、ミカンになったな」

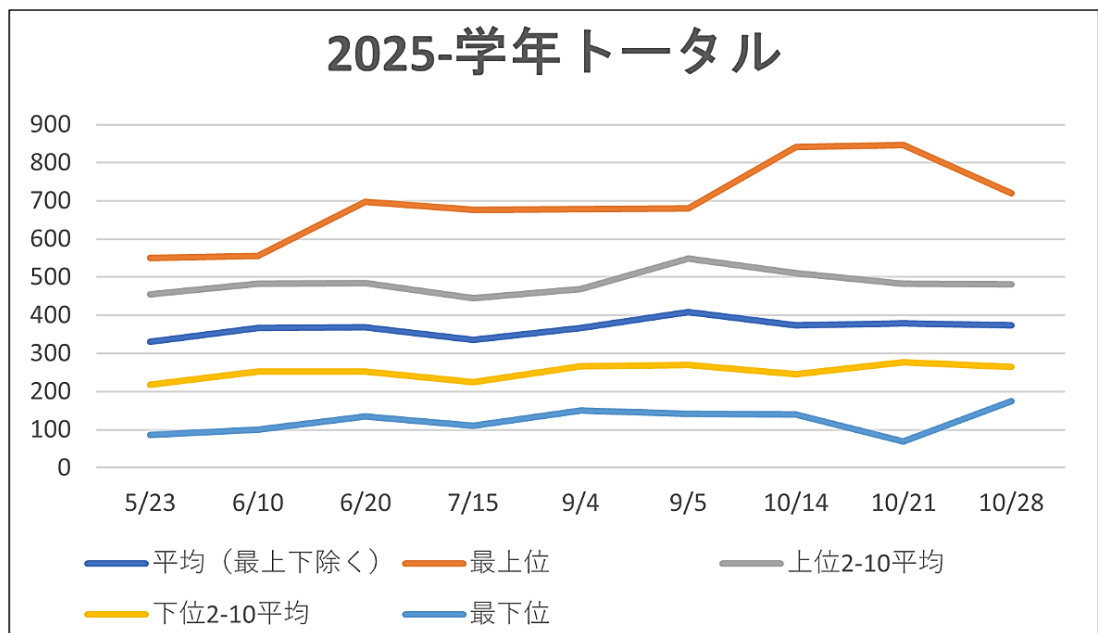
捻り（ひねり）

また歩いていると道端で女の人が、喉が渇いたと言って苦しんでいます。「さあ、水の代わりに、このミカンをどうぞ」女の方はミカンを食べて元気になり、お礼にと華しい布をくれました。「今度は、ミカンが布になったな」

(イ) 漢字変換練習の成果

定期的に、10分間の入力文字数を測定して記録を取らせ、変化を実感できるよう意識付けした。また、データを回収してグラフ化し、実態把握に努めた。

【入力文字数の変遷】

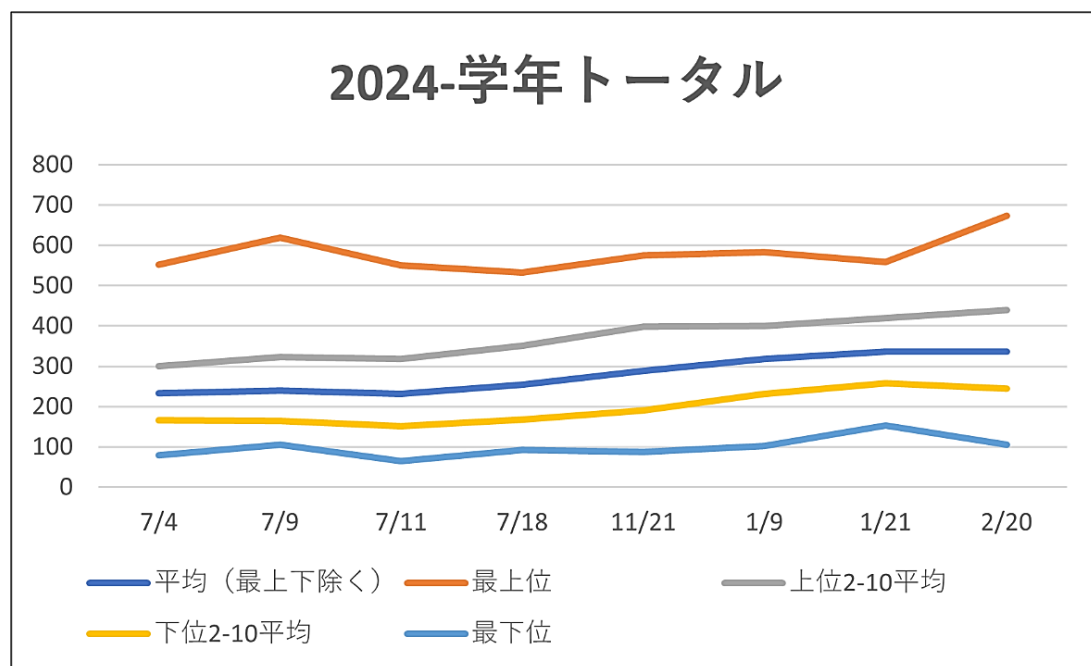


ビジネス文書実務検定の問題を参考に、550文字程度の文章から開始し、1か月程して入力に慣れてきた頃、680文字程度の文章にした。入力速度が極めて速い生徒がいたため、10月からは850文字程度の文章を用いた。

〈入力文字数の変化〉

	当初の入力文字数	10月の入力文字数
上位生徒の平均	5 5 0	7 2 0
下位生徒の平均	1 1 0	1 7 4

昨年度は、3～2級程度の文章を練習した。最初は紙媒体を使い、11月頃から教材を使い始めた。入力文字数の変化は、以下のグラフの通りである。



3 まとめ

年々、パソコンに慣れた新入生が増えてきていると感じていたが、家庭でパソコンを利用している生徒は多くはなく、WordやExcelを使ったことがある生徒や、知っている生徒もあまりいないということがアンケート調査から明らかになった。本校は就職希望の生徒が多いこともあり、基本的なソフトの操作ができるようになることは一つの目標である。また、基本的な操作がスムーズにできるようになれば学習の効率も上がると考え、漢字変換の練習を授業の中に取り入れた。欠席がいたり、休み明けだったり、その時々で測定結果には差があった。クラスによっても傾向に違いが見られ、令和6年度入学生と令和7年度入学生においてもかなり違いがあったが、おおむね回数を重ねるにつれ入力速度は上がり、入力できる文字数が増えた。向上率は平均で150%、最も向上した生徒は250%、上達の少ない生徒でも130%程度向上していた。それまでパソコンに触れる機会の少なかった生徒も、キーボードの操作に慣れるに従ってローマ字入力にも慣れ、文字入力がスムーズにできるようになった。

今回、本校のICT支援員の方が教材を作成してくださり、専門的な部分をサポートしてくださった。授業の中だけでなく家庭でも練習ができると、さらに文字入力が向上するだろうとアイデアを出してくださっているが、家庭に使用できるパソコンがある生徒は少なく、配布されている一人一台端末のキーボードでは操作がしにくいという問題があり、家庭での練習は難しい状況である。しかし、これからもICT支援員の方の技術と実際に使ってみてわかる課題とをすり合わせながら、生徒が学びやすいように工夫し、協力して効果的な学習のための取組ができれば大変有難いと思っている。